

「できることをできるときに」をモットーに見守り活動

【梅園学区】梅園学区子ども見守り活動

《学区データ》

学区名：梅園学区

世帯数：5,525世帯

（平成26年3月1日現在）

《団体データ》

団体名：梅園見守り隊

事業開始年度：平成17年度



◆取組のきっかけと経緯

梅園学区には、梅園小学校、愛知教育大学附属岡崎小学校、愛知教育大学附属養護学校と3つの学校があります。学区内では、以前から不審者や児童連れ去り未遂事件、通学中の交通事故などが起きており、また、全国的にもこうした事件は問題になっていました。こうした背景もあり、PTAの有志により、危険箇所を車で見回る活動を始めました。その後、学区外から徒歩やバスで通学している児童が多い梅園小学校以外の2校からも、梅園小学校の児童と同様に児童の登下校を見守って欲しいという要請がありました。そこで、平成18年1月に学区内の3校の児童の登下校の安全を見守るため、「梅園見守り隊」をPTAの呼びかけにより学区内の様々な団体の協力を得て379人で結成しました。

◆事業内容

隊員は活動する際には、反射ベスト、帽子、たすき、隊員証を身に付け、主に児童に付き添いながら一緒に登下校をする、決まったところで立ち登下校する児童を見守る、通勤ルートを見守るなど、隊員それぞれが無理のないように「できることをできるときに」をモットーに活動を行っています。隊員は平成25年4月現在で442人いますが、主に仕事を退職した隊員を中心に50人ほど毎日活動に参加しています。隊員証は、児童に安心してもらうという身分の保証をするだけでなく、小学校への入校許可証も兼ねています。

また、年4～5回梅園小学校の一斉下校の日に合わせて隊員が集まり児童と一緒に下校する活動も行っており、その際は多くの隊員が活動に参加しています。当日は青色回転灯パトロール隊とも協力し、下校時間に合わせて学区内を巡回しています。

さらに、年1回活動の情報交換の場として、「梅園見守り隊総会」を開催しており、活動中に気が付いたことや学区内の危険箇所の確認などの情報共有を行っています。また、「見守り隊通信」を月1回発行し、学校の行事予定や児童の下校時間の予定をお知らせするなど、見守り隊に関する活動の情報を隊員に向けて発信しており、隊員はその情報を基に活動をしています。

◆成果

隊員の毎日の継続的な活動や学区内の至るところへの梅園見守り隊の横断幕の設置など、防犯への啓発活動に取り組んだ結果、学区内の不審者や変質者などの数が減少しました。隊員の中には、一斉下校の最後の1人になる児童の家まで付き添うなど、熱心に活動に取り組んでいる隊員もあり、学区を挙げて実施した見守り隊の活動の成果といえます。

また、児童が日頃お世話になっている方へ感謝をする「ありがとうの会」にも見守り隊が招かれています。隊員にとっても、児童とふれあうことでやりがいを感じたり、活動を通して防犯意識を高めたりすることにつながっています。



◆今後の展望・課題

現在、毎日継続的に活動を行っている隊員の高齢化もあり、活動を継続的に行っていくためには、後継者を含め、新たに隊員を増やしていくことが必要です。そこで、児童の保護者に積極的に活動に参加してもらえるように努めています。孫の小学校入学を機に新たに活動に参加した方もおり、児童の関係者を始め、地域に参加者の輪を広げていきたいと考えています。

こんな工夫をしています！

●養護学校で「梅園見守り隊を知る会」を開催

→ 梅園学区には、愛知教育大学附属養護学校があり、見守り隊が登下校を安全に見守る活動を行っています。そこで、見守り隊の活動を広く知ってもらうために、「梅園見守り隊を知る会」を養護学校で開催しています。ベストを着用した隊員が児童の登下校の安全を見守っていることを伝え、不審者が出た時の対応を養護学校高等部の生徒、教員、見守り隊隊員による寸劇により教えています。

こうした活動により見守り隊の存在を理解してもらうことができ、養護学校の児童に安心して登下校を行ってもらうことができます。

注目ポイント！

●毎日継続して、学区内をまんべんなく見守る

→ 「できることをできるときに」をモットーに活動しているため、毎日継続して活動できる隊員は限られていますが、自分の住んでいる地域を中心にまんべんなく活動できるよう、毎日継続して活動できる隊員の中で暗黙の了解で区域を定め活動しており、学区内をまんべんなく見守ることができています。

働いている隊員は通勤ルートを見守るなどできる形で見守り活動に協力しており、また、バス通学の児童はバス停に先生が迎えに行くなど、学校とも連携を図りながら学区内の3校の児童が安全安心に登下校できるよう配慮して活動を行っています。